島本町教育委員会 会議録（令和7年第4回 臨時会）

日 時	令和7年3月24日（月） 午前9時30分～午前10時24分
場 所	島本町役場3階 委員会室
出 席 者	横山寛教育長、高岡理恵教育委員、西尾一実教育委員、 （教育こども部）岡本泰三部長、安藤鎌吾次長、南田篤志次長 （教育総務課）三代剛課長、上月健史参事、小林貴衣主査 （教育推進課）岡澤潤課長兼教育センター所長、森悠介参事、吉田裕亮参事、 杉谷久彌参事、山本千尋参事 （保育幼稚園課）三宅拓也課長 （生涯学習課）坂元貴行課長兼体育館長
委 員 及 び 事 務 局 職 員	
欠 席 者	丸野亨教育委員、細見知子教育委員
委 員	
議 題	第11号議案 令和7年度教育・保育重点目標及び関係機関に対する指示事項（案）について 第12号議案 島本町教育委員会会計年度任用職員の給与に関する規則の一部改正について 第13号議案 島本町立学童保育室設置条例施行規則の一部改正について 第14号議案 島本町教育委員会表彰規程の一部改正について 第15号議案 令和7年度島本町いじめ等対策委員会委員の委嘱について 第3号報告 令和6年度大阪府中学生チャレンジテスト（中学1・2年生）の結果公表について 第16号議案 事務局職員人事について
議 決 事 項	第11号議案、第12号議案、第13号議案、第14号議案、第15号議案、 第16号議案
教 育 長 の 報 告 の 要 旨	別紙議事録のとおり
そ の 他	傍聴者0名

教育長

本日、丸野委員、細見委員から島本町教育委員会会議規則第3条第3項の規定に基づき欠席する旨の届け出がありましたので、出席者は3名です。定足数を満たしておりますので、令和7年第4回教育委員会臨時会を開会いたします。

お諮りいたします。島本町教育委員会会議規則第17条第2項の規定に基づき、会議録確認委員は高岡教育委員に決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、会議録確認委員は、高岡教育委員に決定いたしました。よろしくお願いたします。

お諮りいたします。第3号報告につきましては、一部、学校別の結果を扱うこととなり、その際は、平成26年第4回教育委員会臨時会にて公表しないことと決定されたことから、今回も同様に公表しないこととすること、また、第16号議案につきましては、人事案件であることから、島本町教育委員会会議規則第15条ただし書きの規定に基づき、第3号報告の学校別の結果並びに第16号議案について秘密会にすることとし、当該議事について最終の議事日程として説明し、お諮りすることに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、第3号報告の学校別の結果並びに第16号議案については秘密会にすることとし、当該議事について最終の議事日程とすることに決しました。

それでは、第11号議案「令和7年度教育・保育重点目標及び関係機関に対する指示事項(案)について」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

教育総務課長

それでは、第11号議案「令和7年度教育・保育重点目標及び関係機関に対する指示事項(案)について」、御説明申し上げます。

本案件は、教育長に対する事務委任規則第1条第1項第1号の規定に該当するため、教育委員会の議決を求めるものでございます。

「教育・保育重点目標及び関係機関に対する指示事項」につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基

づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、毎年、点検及び評価を行うこととなっておりますことから、効果的な教育行政を推進し、かつ、住民への説明責任を果たすため、その基礎となる目標として毎年度設定しているものでございます。

本年度におきましても、まず事務局で素案を作成した後、教育委員の皆様を始め、各学校長等から出された意見等を踏まえて、最終案を作成いたしました。

本議案について御可決を頂きましたら、速やかに学校等の関係機関に配布するとともに、町ホームページ及び文化・情報コーナーで公表する予定でございます。

以上、簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

よろしく御審議いただき、御可決賜りますようお願い申し上げます。

教育長

これより、本案に対する質疑を行います。

質問のある方は、挙手願います。

教育委員

4点ほど気になるところがありましたので少し教えていただきたいことがあります。

まず11ページなんですが、カリキュラムマネジメントの充実のところ、カリキュラムマネジメントには3つの側面で見直すこと、というのがあります。その下に3つの側面はこれです、というふうに書いてあるのでとてもわかりやすいんですが、教科等横断的な視点というのはこの下の指示事項のところ、イのカリキュラムマネジメントの充実のところのどれに当たるのかを教えていただきたいのが1点目です。

次に2点目が、19ページの性に関する指導の充実のところ、これは本当に私も学校でいろいろ考えさせられることもあって、とても難しいことです。特にキの指示事項のところ、全教職員の共通の理解、と書いてあるんですが、多分共通の理解ってなかなか考え方によっては難しいんじゃないかなというふうには思うので、こういった形でされるのか、誰かを呼んできて講座を受けるのか、何かそういうふうな取組の具体的なことがわかれば教えていただきたいです。

それから3点目が20ページの力の支援の連携のところ、支援

教育保育の充実で、0歳から成人までの連続した、というふうに書いてます。これは支援教育の対象は成人までと考えていいのでしょうか。教育って18のイメージがあったので、支援まで教育委員会が含めていいのかなどを教えてください。

それから最後が27ページのところです。ここのICT活用の指導力向上なんですけど、これは私もまた今学校で取り組んでいるところなんですけど、先成AIの活用はここに含まれているのかなどです。今パワーポイントを作ったりとか、あと会議録の文字起こしなんかもみんな生成AIで私たちも取り入れているところです。そういうふうなものも指導力の向上のところに含まれているのかを教えてください。以上です。

教育推進課参事

ではまず11ページのカリキュラムマネジメントについて申し上げます。こちらの教科横断的な、というところに関しましては、この1行目から3行目のところで包括的に述べておるといふふうに我々としては認識をしております。具体的な教科横断的という言葉は使ってはいないんですけども、児童生徒が自分に合った学び方を習得する学習改善でありましたりですとか、あとはもう学習環境、学習課題、学習形態、学習評価、こちらを教員が教科横断的な視点を持つことで推進してまいるといふことでこの書き方をさせていただいております。以上でございます。

教育推進課長

次に19ページの性教育に関するところでございますが、全教職員の共通の理解というものは、外部を呼ぶときもあるんですけども、基本的には各校の養護教諭が中心となりまして、担任と連携した事業を行っているところであります。また、健康診断等におきましても、まず冒頭に養護教諭が児童生徒に対してお話をする等で、その場に教職員も立ち会っておりますので、そういった場で共通の理解というところを図っているところでございます。19ページに関しましては以上でございます。

教育推進課参事

続きまして3点目の支援の連携、20ページに関してお伝えさせていただきます。0歳から成人までの連続した支援体制というところなんですけれども、小中学校においては支援教育の担当ももちろんおり

ます。支援体制を構築して進めておりますが、それ以降というところにも関しましては、島本町教育センターの方で教育相談事業というのを実施しております、実際に卒業後の子どもたち、そしてその保護者を対象とした相談というのも具体的にかかなりの件数実施をさせていただいております、成人に至るまでというところを包括的に支援していくようにしている、そしてあと加えまして、スクールソーシャルワーカーが中学校におりますので、卒業後の進路であったりとか、どのような形で家庭の支援をしていくか、というところをCSWだったり福祉部局と連携しながら繋ぎというのをさせていただいている、そういったところが成人までの体制に繋がるのかなというふうに認識しております。以上でございます。

教育推進課参事

続きまして27ページのICT活用の指導力向上について、ということで、先ほど生成AIという言葉がございました。もちろん国の動向なども注視しつつ、義務教育段階で、特にその児童生徒に対して生成AIというところがどこまで授業で導入できるかってところもあるんですけども、ただ、教員側はそちらを知っているということはもちろん不可欠であるかなというふうに理解をしております。今後どういふ情勢になっていくかも踏まえまして適切に対応してまいりたいというふうに考えております。以上です。

教育委員

11ページのカリキュラムマネジメントのその考え方は、何か教科を超えた繋がり方っていうイメージでいたんです。横断的っていうのが。だから言えば総合的な学習とか、社会がもしかしたら中心になって、そこが国語や算数、理科とかっていうふうに横断的に繋がっていくイメージでした。また、もう1つは、全ての教科と土台になるもの、例えば話し合うとか、考える力とか、先に土台を作るのをどこの教科でも横断的にして、それぞれに発展していく、そういうイメージだったので、ここの3行を読んだときになかなか自分の中で繋がりにくかったなというのがあります。私は教員であっても大学の教員なので、小学校のこの読み方としてはこれでわかるのであれば、先生方には繋がるかなというふうには思いますので大丈夫です。ありがとうございます。

教育委員

21 ページのエの地域人材の確保で、教えていただきたいと思っ
たのが全部削除になってるので。ちょっと私の不勉強なのか、地域住
民の方々を中心とした大人の目を増やし、これ1人区間、見守りの空
白地帯、大人の目が必要で見守るっていうのはわかるんですけど、1
人区間というのか、空白地帯という意味を教えていただきたいなとい
うことと、説明をいただけるという回答をメールでいただいたんです
けれども、これがまた削除になっていますので、それがなぜそうなっ
たのか、という理由をお聞きできればと思います。以上です。

教育推進課長

まず1人区間の説明ですけれども、学校から距離のある自宅周辺で児
童生徒が1人で歩く箇所というのを1人区間、空白地帯というふうに
これまでも表現をしてまいりました。ここの本年度の指示事項のとこ
ろで削除させていただいてますのは、ここでは大人の目を増やす、安
全ボランティアさん等を確保する、ということが趣旨ですので、重複
しているところはあるのかなと。そこの文言はなくても指示事項とし
てはいいのかなと思ひ、削除しております。以上でございます。

教育長

ほかにございせんか。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより、本案に対する討論を行います。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、討論を終結いたします。

それではお諮りします。本案は、原案のとおり可決することに御異
議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、可決することに決しました。

それでは、第12号議案「島本町教育委員会会計年度任用職員の給
与に関する規則の一部改正について」を議題とします。事務局の説明
を求めます。

教育総務課参事

それでは、第12号議案「島本町教育委員会会計年度任用職員の給
与に関する規則の一部改正について」、御説明申し上げます。

本案件は、教育長に対する事務委任規則第1条第1項第12号の規

定に該当するため、教育委員会の議決を求めるものでございます。

始めに、資料の42ページを御覧ください。

本ページに記載しているものが、今回の規則改正の改め文でございます。

続いて、44ページをお開きください。

はじめに、提案理由でございます。

提案理由は、島本町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正に伴い、所要の改正を行うものでございます。

次に、改正の概要についてでございます。

島本町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例を改正して、地域手当相当額の支給割合を、現行の6%から12%、令和7年度は、経過措置として10%に、引き上げることを踏まえ、給料表の適用を受けない会計年度任用職員の報酬額についても、地域手当相当額の引き上げ分を反映するものとして、45ページの別表のとおり、報酬額を改定するものです。

施行期日は、令和7年4月1日でございます。

以上、簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

よろしく御審議いただき、御可決賜りますようお願い申し上げます。

教育長

これより、本案に対する質疑を行います。

質問のある方は、挙手願います。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより、本案に対する討論を行います。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、討論を終結いたします。

それではお諮りします。本案は、原案のとおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、可決することに決しました。

それでは、第13号議案「島本町立学童保育室設置条例施行規則の一部改正について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

教育推進課長

それでは、第13号議案「島本町立学童保育室設置条例施行規則の一部改正について」、御説明申し上げます。

本案件は、教育長に対する事務委任規則第1条第1項第12号の規定に該当するため、教育委員会の議決を求めるものでございます。

始めに、資料の48ページを御覧ください。

本ページに記載しているものが、今回の規則改正の改め文でございます。

続いて、49ページをお開きください。

提案理由でございます。

提案理由は、学童保育室の定員を変更するため所要の改正を行うものでございます。

具体的な改正の概要について新旧対照表を基に御説明いたします。

50ページを御開きください。

令和7年度の第一学童保育室への入室希望者が、現行の定員を超過するため、第一学童保育室のクラスを現行の4室から1室増室して5室開室とすることから、定員171人に改めるものでございます。

また、第三学童保育室の定員を面積基準上受入可能な定員152人に、第四学童保育室の定員を面積基準上受入可能な定員263人にそれぞれ改めるものでございます。

施行期日は、令和7年4月1日でございます。

以上、簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

よろしく御審議いただき、御可決賜りますようお願い申し上げます。

教育長

これより、本案に対する質疑を行います。

質問のある方は、挙手願います。

教育委員

以前に聞いたかもしれないですがもう1回教えてください。学童室の面積基準を教えてください。それからもう一つは第三学童保育室は新しくできたマンションのそこも含めてのこの人数と考えてよろしいでしょうか。

教育総務課長

1点目でございます。面積基準です。島本町の放課後児童健全育成事業の設備および運営に関する基準を定める条例、というのがございまして、その中で専用区域の面積については児童1人につき1.65

次に、改正の概要について、新旧対照表を基に御説明いたします。

58ページを御覧ください。

第2条のとおり、児童生徒表彰及び教育功労者表彰を削り、教職員表彰のみとすることとしています。そのため、児童生徒表彰及び教育功労者表彰を規定している第4条及び第5条を削り、条の繰り上げやその他軽微な文言の修正等を行っています。

また、表彰の時期として、改正案第5条のとおり、教職員表彰について、必要に応じて随時行うこととしています。

なお、2点の表彰につきましては、町表彰に統合いたしますが、候補者等につきましては、適切な時期に教育委員の皆様にはお示しできればというふうに考えております。

施行期日は、令和7年4月1日でございます。

以上、簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

よろしく御審議いただき、御可決賜りますようお願い申し上げます。

教育長

これより、本案に対する質疑を行います。

質問のある方は、挙手願います。

教育委員

本当に基本的な質問なんですけど、職員表彰という言葉が教職員表彰に変更されているんですね。教職員となると教員と職員ということなんですけど、今までは職員のみだったということなんですか。教職員というふうに改められたということなんですか。

教育総務課長

今までもこの職員については、我々職員に際しては当然町長部局なんですけれども、この職員表彰についても教職員という取り扱いで認識をしておりました。以上でございます。

教育長

ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより、本案に対する討論を行います。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、討論を終結いたします。

それではお諮りします。本案は、原案のとおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 御異議がないようでございますので、可決することに決しました。
それでは、第15号議案「令和7年度島本町いじめ等対策委員会委員の委嘱について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

教育推進課参事 それでは、第15号議案「令和7年度島本町いじめ等対策委員会委員の委嘱について」、御説明申し上げます。

本議案は、島本町いじめ防止等基本方針にのっとり、令和7年度島本町いじめ等対策委員会に必要な委員の委嘱をお願いするものでございます。

本委員会は、町立小中学校におけるいじめ等の実態把握や有効な対策等を検討することのほか、重篤ないじめ事案が発生した際、客観的な事実関係の調査が必要とされる場合に調査主体となる組織でございます。

委員の選任に当たりましては、専門的な知識、経験を有する方で、委員の公平性及び中立性を担保するという観点に立ち、弁護士、医師、退職校長、臨床心理士、社会福祉士に、委嘱をお願いしております。

令和7年度は、令和6年度をお願いをした5名の方々に、継続して委員を務めていただくよう依頼し、5名全員から委嘱について承諾をいただいております。

「島本町いじめ等対策委員会」の委員委嘱の任期としましては、島本町教育委員会規則に規定しており、令和7年4月1日から令和8年3月31日まででございます。

以上、簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

よろしく御審議いただき、御可決賜りますようお願い申し上げます。

教育長 これより、本案に対する質疑を行います。

質問のある方は、挙手願います。

(「なし」の声あり)

教育長 ないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより、本案に対する討論を行います。

(「なし」の声あり)

教育長 ないようでございますので、討論を終結いたします。

それではお諮りします。本案は、原案のとおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、可決することに決しました。

それでは、第3号報告「令和6年度大阪府中学生チャレンジテスト(中学1・2年生)の結果公表について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

教育推進課参事

それでは、第3号報告、令和6年度大阪府中学生チャレンジテスト(中学1・2年生)の結果につきまして、御説明いたします。

令和7年1月9日(木)、大阪府内の中学第1及び第2学年を対象に、中学生チャレンジテストが実施されました。このたびは、調査結果概要を報告させていただきます。資料の67ページが、本町中学1年生の度数分布及び教科別結果概要となっており、本年度から各教科における度数分布を作成いたしております。68ページはアンケート結果の抜粋及び分析をまとめたものとなっており、69ページが、本町中学2年生の度数分布及び教科別結果概要と度数分布、70ページはアンケート結果の抜粋及び分析、そして、現在の中学2年生における1年次からの経年比較をグラフにまとめております。

まずは資料67ページを御覧ください。中学1年生の教科別の調査結果につきましては、実施された国語、数学、英語の3教科全てにおいて、大阪府の平均を上回る結果となっております。特に英語では大阪府の平均を9.8ポイント上回る良好な結果となっており、本町の英語教育推進の取組の成果の一つと捉えております。

続いて資料68ページのアンケート結果についてでございますが、

(3)の「授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。」につきましては、肯定的意見の割合が府平均より15.3ポイント上回っております。生徒を学習の中心とした授業改善が推進され、学習したことを自ら整理する取組が定着している成果と捉え、今後もこの数値を維持できるよう、集団作り等をすすめてまいります。一方、(4)の「授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいあります

か。」につきましては、大阪府平均と比較して「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒の割合が10.5ポイント低くなっております。ICT機器を用いた思考の整理や、必要に応じて情報を整理する活動について、今後も推進していく必要がございますため、本町のGIGAスクール連絡会等を活用し、啓発に努めてまいります。

続いて中学2年生についてでございます。資料の69ページを御覧ください。中学2年生の教科別の調査結果につきましては、実施された国語、社会、数学、理科、英語の5教科全てにおいて、大阪府の平均を上回る結果となっております。ただ、依然として課題の見られる単元や観点、例を挙げますと各教科特有の知識や技能を計る設問で正答率が低くなっているところがありますので、各中学校においては丁寧な分析及び対応策についてまとめるように指示を出しております。

続いて資料70ページのアンケート結果についてでございますが、(4)の「授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。」につきましては、大阪府平均と比較して「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒の割合が16.1ポイント、昨年度の結果と比較して29ポイント高くなっております。この成果に至った好事例を丁寧に共有し、生徒の課題に正対したICT機器の活用について、各校での研究を進めてまいります。一方、経年変化に着目いたしますと、(5)の「家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。」の肯定的回答が、昨年度同集団の肯定的回答と比較して3ポイント低くなっております。教科結果分析からも伺えるとおおり、生徒が自らの学習上の課題と向き合い、自らの学びを調整しながら自学自習を行えることを理想とし、ICT機器の適切な活用などを検討してまいります。

以上説明させていただきました資料67ページから70ページは、地域・保護者への説明責任を果たすためホームページにて公開させていただく予定としております。

教育長

ここからの説明につきましては、学校別の結果を扱うこと、また、次の第16号議案については、人事案件であることから、会議の冒頭にて、秘密会とすることが決定しております。